

未来のグリーン・ジョブに向けた学生の育成

日本の UNAI メンバー機関である北九州市立大学は、2016 年に大学が策定した 3 つの目標のうちの一つである「環境を育む」という目標のもと、環境に配慮した人材の育成に取り組んでいます。大学によると、環境問題の解決には学際的なアプローチが必要であり、学生は幅広い分野の知識やスキルを身につけるとともに、異なる職種や専門分野の人々とのネットワークを構築することが不可欠だといいます。

そのため、北九州市立大学では「未来を創る環境技術」と題した学際的なアカデミックコースを企画・実施しています。その目的は、大学が拠点を置く北九州市の次世代産業とされる洋上風力発電などの再生可能エネルギー関連など、未来を見据えた産業に就職するために必要な知識を身につけることにあります。

国連環境計画では、環境に配慮した「健全な技術」を、「ライフサイクルの観点から、環境を保護し、汚染が少なく、持続可能な方法で資源を使用し、廃棄物や製品をより多くリサイクルし、すべての残留廃棄物を代替技術よりも環境的に受入れ可能な方法で処理する技術を理解し、利用し、複製し、その技術を選択して地域の条件に適応させ、土着技術と統合する能力を含む」と定義しています。

このコースでは、環境技術がどのような役割を果たしているのか、どのように発展しているのか、今どのような技術が注目されているのかなどを実践的に学ぶことができます。企業や官公庁、他大学の専門家による講義も組み込まれています。2020 年には 200 名の学生が受講し、空調技術や環境工学の考え方、人工知能などを学びました。

経済学部の牛房義明教授は、「環境エネルギーに関連する技術だけでなく、環境に配慮し、エネルギーを意識した社会システムについて理解を深める絶好の機会です。文理融合でアプローチすることが重要なことです。」と語りました。

法学部の学生は、「再生可能エネルギーの利用を奨励すべきだと感じている」と語りました。国際環境工学部の学生は、「北九州市が環境を重視して発展し、人々が誇りを持てるような街づくりに貢献できる人になりたい」と目標を語りました。

外国語学部の学生は、「再生可能エネルギーには、雇用を創出し、地域経済に貢献するという経済的側面もあることがわかった」と語りました。

このコースは、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの枠組みの中で、特に「持続可能な開発目標 7 (手頃でクリーンなエネルギー)」、「目標 9 (産業、イノベーション、インフラ)」、「目標 13 (気候変動)」に焦点を当てています。